

令和7年度
第1回 球磨川水系学識者懇談会

事業の報告

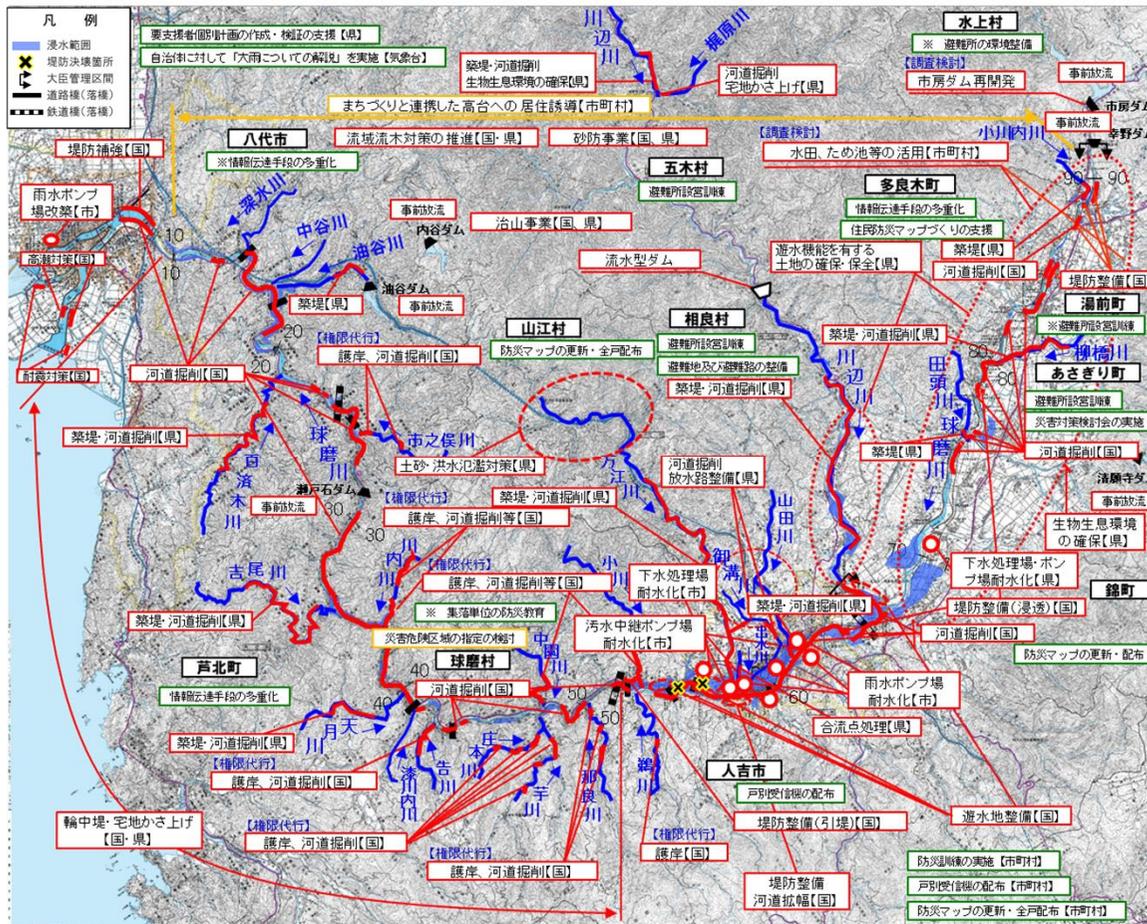
令和7年7月30日

国土交通省 九州地方整備局
八代河川国道事務所
熊本県土木部河川港湾局
河川課

～流域のあらゆる関係者が協働し、まちづくりと連携した治水対策の推進～

○令和2年7月豪雨では、戦後最大の洪水により甚大な被害が発生したことや人吉・球磨盆地が急峻な山々に囲まれたすり鉢状の地形となっており、複数の急流支川が流れ込み、さらに盆地の下流側が山間狭窄部となり、豪雨時には水位が上昇しやすいという流域の特徴を踏まえ、国、県、市町村等が連携し、河道掘削、堤防整備（堤防補強）、輪中堤・宅地かさ上げ、遊水地等の取り組みを集中的に実施することにより、令和2年7月洪水と同規模の洪水に対して、越水による氾濫防止※（人吉市の区間等）、家屋の浸水防止※（中流部）など、流域における浸水被害の軽減を図る。

※新規ダム並びに既設ダムの再開発による洪水調節の効果を含む



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

令和6年2月時点

※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画の過程でより具体的な対策内容を検討する。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 河道掘削、引堤、輪中堤、宅地かさ上げ、遊水地 堤防補強 等
- 流水型ダム、市房ダム再開発※ ※調査・検討に令和3年度から本格着手
- 土砂・洪水氾濫対策の実施
 - 砂防関係施設の整備
 - 下水道等の排水施設の整備
 - 雨水貯留、雨水浸透施設整備
 - 水田の貯留機能向上
 - ため池の補強、有効活用
 - 農業水利施設の整備
- 森林の整備・保全、治山施設の整備、砂防治山の勉強会
- 流域流木対策（林野部局との連携強化）

（関係者：国、熊本県、電源開発（株）、九州電力（株）、あさぎり町 等）

水田の貯留機能向上

河川の生態系を保全し、生物環境の改善を図りながら自然と調和したハード整備の推進

掘削土の活用

掘削土の活用による復旧復興の基盤整備への支援等

森林の整備・保全 治山施設の整備

■被害対象を減少させるための対策

- まちづくりと連携した高台への居住誘導【防災集団移転促進事業の実施など】
- 土地利用規制、誘導（災害危険区域等）・移転促進
- 不動産取引時の水害リスク情報提供
- 土砂災害特別警戒区域からの移転促進
- 土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実化
- 二線堤、自然堤防の保全 等

※今後関係機関と連携し対策検討

二線堤の保全

高台への居住誘導（集団移転）

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 排水門等の整備や排水機場等の耐水化
- 避難行動、水防活動に資する基盤等の整備
- 避難を判断するための情報伝達【球磨川流域タイムラインの運用・改善、危機感共有と命を守る災害報道連携会議など】
- 水害リスクの周知
- 平時からの住民等の防災意識醸成【コミュニティタイムラインの策定・活用、浸水標識設置など】
- 防災活動の着実な実施、連携体制の構築
- 地域と連携した排水活動及び訓練、施設運用
- 水害被害を補償する保険への助成 等

※今後関係機関と連携し対策検討

庁舎等の浸水対策の実施

砂防治山の補強を受けた人吉市の治水

○上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国・県・市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進することとし、令和2年7月洪水からの早期復興の観点から、可能な限り、各対策の早期完成を目指す。
 【令和3年度出水期まで】可能な限りの堆積土砂の撤去及び堤防決壊箇所の本復旧と合わせて、タイムラインの改善等を緊急的に実施した。
 【第一段階】堆積土砂の撤去、災害復旧工事を進めるとともに上下流バランスを考慮の上、河道掘削を最大限実施し進捗を図る。輪中堤・宅地かさ上げをまちづくり等と連携して完成させる。また、遊水地、引堤等に必要な用地確保に着手。下流部においては、河道掘削、堤防補強等を推進。県区間においては放水路整備や河道掘削等を推進。流水型ダム、市房ダム再開発の調査・検討に着手し進捗を図る。併せて、下水道施設の整備、災害危険区域・被災市街地復興推進地域の指定の検討、ハザードマップの作成等を推進する。
 【第二段階】早期に遊水地を完成。河道掘削(拡幅部)(人吉地区)、引堤、県区間堤防整備、遊水地(支川)等の完成。引き続き、流水型ダム、市房ダム再開発の進捗を図る。
 下流部においては、河道掘削、堤防補強等を推進。併せて、田んぼダムの普及・拡大を推進する。
 【以降】下流部の堤防補強対策、流水型ダム、市房ダム再開発について、完成を図るとともに、流域治水プロジェクトの進捗に応じ、上下流バランスに配慮しながら、上流部の堤防整備・河道掘削を行う。併せて、水防災教育に関する支援や関係機関が連携した水防訓練を継続する。

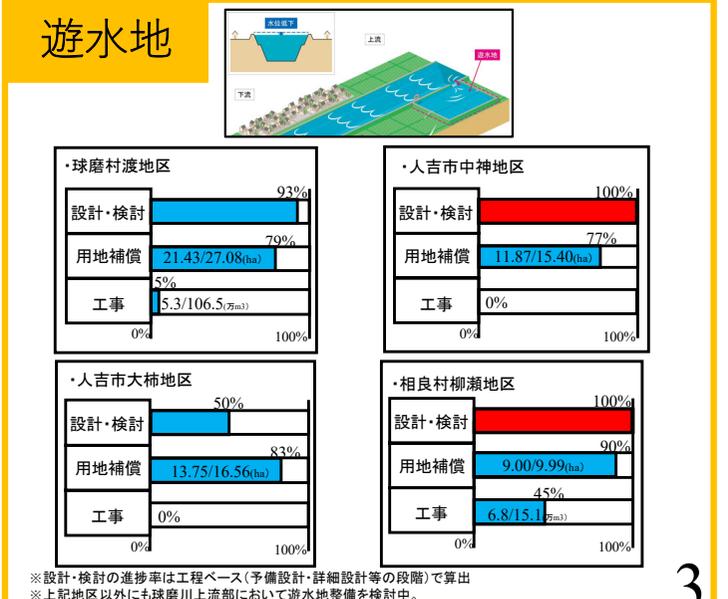
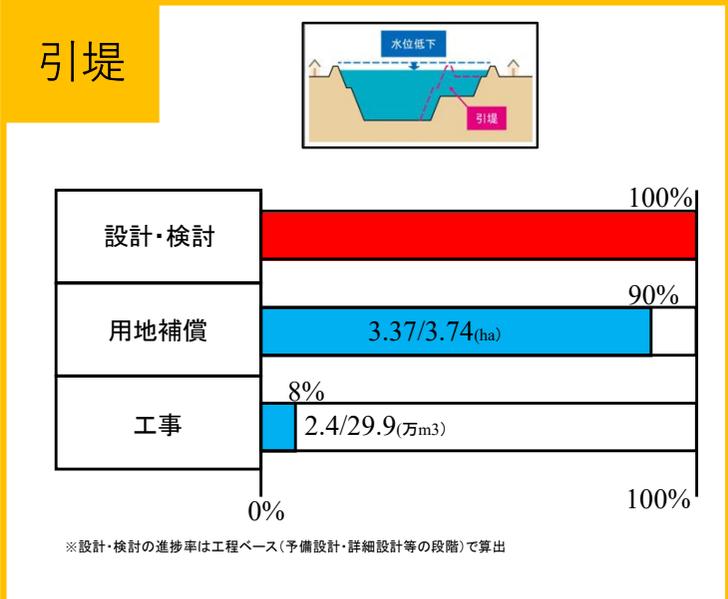
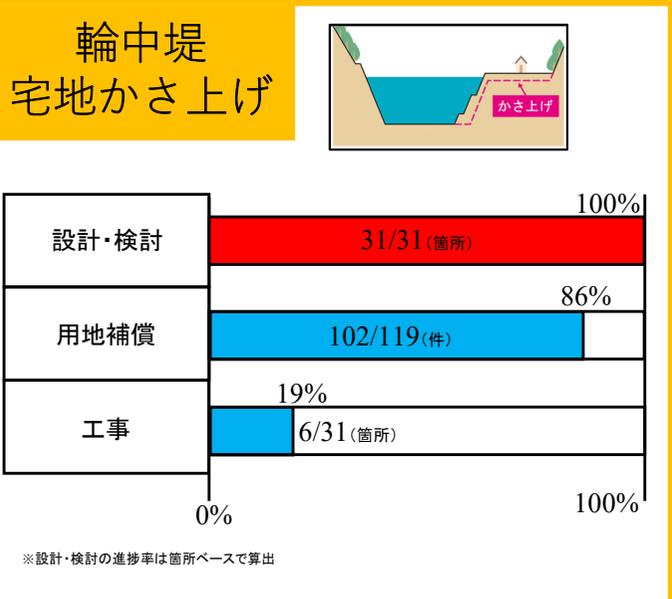
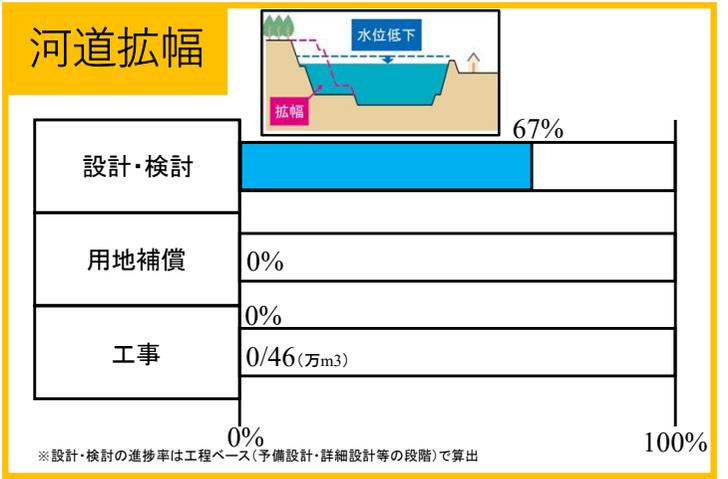
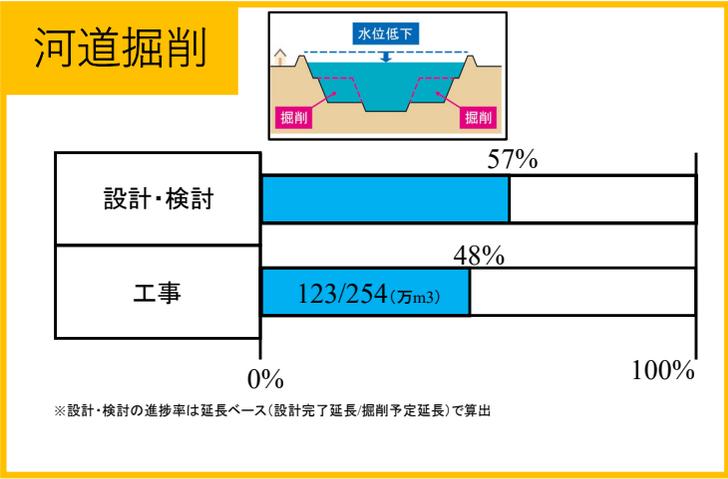
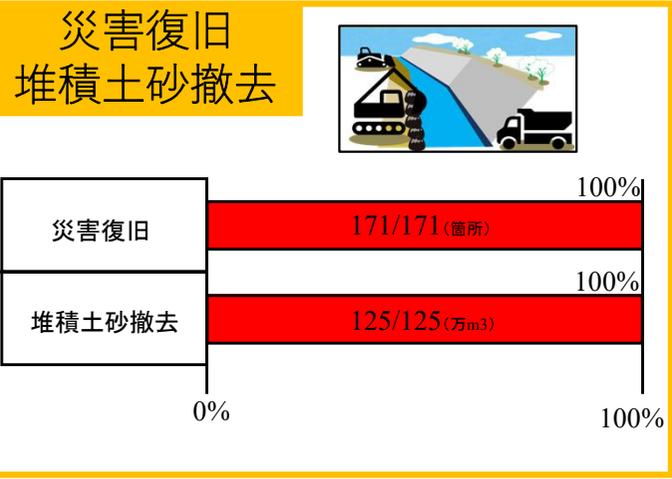
区分	対策内容	実施主体	工程		
			第一段階(概ね5年)	第二段階(~R11)	以降(R12~)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ※【緊】 河川における対策のうち、緊急治水対策プロジェクトとして位置づけている対策	河道掘削(中流部)【緊】 河道掘削(人吉地区)【緊】 河道掘削(拡幅部)(人吉地区)【緊】 引堤【緊】 輪中堤・宅地かさ上げ【緊】 遊水地整備【緊】 河道掘削、堤防補強対策(下流部) 高潮耐震対策(下流部) 堤防整備・河道掘削(人吉地区・上流部) 流水型ダム等6ダムにおける事前放流等の実施(自治体、企業)【緊】	国土交通省	[進捗バー]		
	河道掘削等【緊】 御満川放水路【緊】 堤防整備等【緊】 河道掘削・堤防整備等 輪中堤・宅地かさ上げ	熊本県 等	[進捗バー]		
	流水型ダム・市房ダム再開発【緊】	国土交通省・熊本県	[進捗バー]		
	砂防関係施設の整備	国、熊本県 等	砂防施設の整備 緊急的な砂防施設の整備(87年度まで)		
	下水道等の排水施設の整備	熊本県、市町村 等	施設改築(八代市)・施設耐水化(人吉市)等 施設耐水化(市町村等)		
	雨水貯留・雨水浸透施設整備	国、熊本県、市町村 等	対象箇所活用検討、整備実施		
	水田の貯留機能向上 ため池の補強、有効活用 農業水利施設の整備 等	熊本県、市町村 等	実証実験※ 田んぼダムの普及・拡大 ※モデル地区で実施		
	森林の整備・保全、治山施設の整備	国、熊本県、市町村等	関係等による森林整備・保全 治山施設の整備		
被害対象を減少させるための対策	まちづくりと連携した高台への居住誘導、土地利用規制・誘導・移転促進	流域市町村 等	災害危険区域、被災市街地復興推進地域の指定の検討 復興まちづくり計画の策定・事業の推進		
	二線堤、自然堤防の保全	国土交通省 等	二線堤・自然堤防の保全		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	排水門等の整備や排水機場等耐水化 避難行動、水防活動に資する基盤等の整備 避難を判断するための情報伝達 水害リスクの周知 平時からの住民等の防災意識醸成 防災活動の着実な実施・連携体制の構築 地域と連携した排水活動及び訓練、施設運用	国土交通省 熊本県 市町村 等	排水門等の整備、耐水化 避難所・水防備蓄倉庫の目的・質的整備、河川監視カメラ・水位計・避難誘導案内板・監視カメラの整備 多角的な情報伝達手段、ネットワーク不慮・停電等に耐性した情報伝達手段の検討・導入 等 ハザードマップの作成・電子化、整備途上段階も含めた多段階リスク情報の発信 等 防災教育の充実 等 水害タイムラインの作成・運用・検証、マルチハザードタイムラインの作成・運用・検証 等 排水作業計画の共有・訓練等での活用・見直し、庁舎等治水対策の実施 等 災害復旧 復旧・復興プランの推進		
グリーンインフラの取組	自然再生事業 新萩原橋周辺地区かまちづくり 坂本地区かまちづくり 多自然川づくり 自然環境を活かした地域活動の取り組み	国土交通省 市町村 等	自然再生事業 新萩原橋周辺地区かまちづくり 坂本地区かまちづくり 多自然川づくり 自然環境を活かした地域活動の取り組み		

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

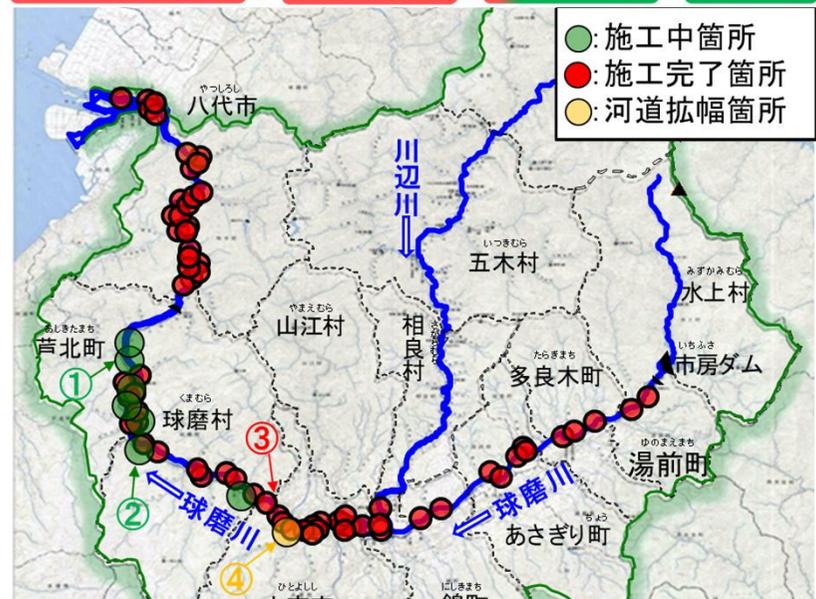
■河川対策
 (約4,848億円)
 ※うち、流水型ダム
 約2,680億円を含む
■砂防対策
 (約266億円)
■下水道対策
 (約25億円)

★緊急治水対策プロジェクト全体予算 **1,268億円** (事業期間: 令和2年度～令和11年度)

- 災害復旧 : 令和4年出水期までに国(31カ所)、令和5年5月に権限代行(140カ所)の計171カ所の復旧完了。
- 堆積土砂撤去 : 令和2年7月豪雨で堆積した土砂125万m³は令和4年1月末に掘削完了。
- 河道掘削 : 254万m³を目標に掘削中。令和7年5月末時点で約123万m³を掘削完了。
- 河道拡幅 : 令和6年度より人吉地区の河道拡幅に向けた現地調査、設計に着手。今後46万m³を拡幅予定。
- 輪中堤・宅地かさ上げ : 31地区中27地区で工事に着手し、そのうち6地区で工事完了。
- 引堤 : 令和5年度より渡地区の引堤工事に着手済み。
- 遊水地 : 各遊水地において現地調査、設計に着手し、そのうち渡地区・柳瀬地区において工事着手済み。



- 瀬の形成要因となる巨石等や河川景観を形成する巨石・奇岩等を掘削しないように保全・創出を行った上で河道掘削を実施。
- 支川合流部等に形成されるワンドやたまりなどの良好な動植物の生息・生育環境についても、可能な限り保全を図った上で河道掘削を実施。
- 令和6年度より人吉地区の河道拡幅に向けた現地調査、設計を進めるとともに地元説明及び関係機関との協議に着手。

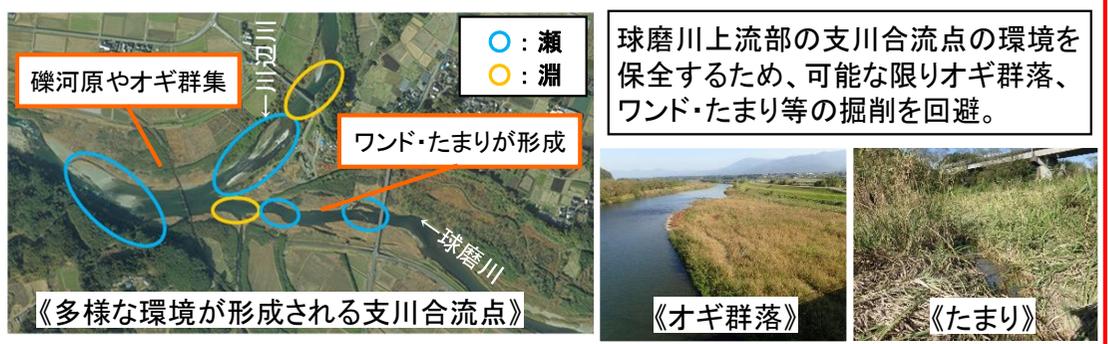


・令和2年7月豪雨により堆積した土砂量(推定)約125万m³については、令和4年1月末に掘削完了
 ・更に令和7年5月末までに約123万m³を掘削
 (進捗率: 約26%、流域治水プロジェクト: 約123万m³/計画: 約480万m³)

■河川環境(瀬・淵等)、河川景観(巨石、奇岩等)の保全



■河川環境の保全(支川合流部環境の保全)



【河道掘削】



【河道拡幅】



- 鮎漁等への影響に配慮した施工時期とするとともに舟下りやカヌー等の河川の利用にも配慮し、航路の維持や吃水深の確保等河川利用者の意見をふまえながら河道掘削を実施。
- 河道掘削に伴う濁水の発生を抑制するため、汚濁防止フェンスや沈砂池の設置等の濁水抑制対策を実施。

■河道利用にも配慮した河道掘削の実施

舟下りやラフティング、カヌー等での河川利用がある区間は、事前に河川利用者の意見を聴取し、掘削形状を検討したうえで河道掘削を実施。



河川利用者(球磨川くだり)へのヒアリング状況



河川利用者(高校関係者)掘削状況現地確認

《川開き祭り開催》
令和7年4月19日開催



球磨川下りや地元の高校生のカヌーの試走を実施

■濁水発生を抑制するための対策

水中部や水際部は、工事に伴う濁水の発生を抑制するため、汚濁防止フェンスの設置や沈砂池を設置などの濁水を抑制するための対策を実施したうえで河道掘削を実施。

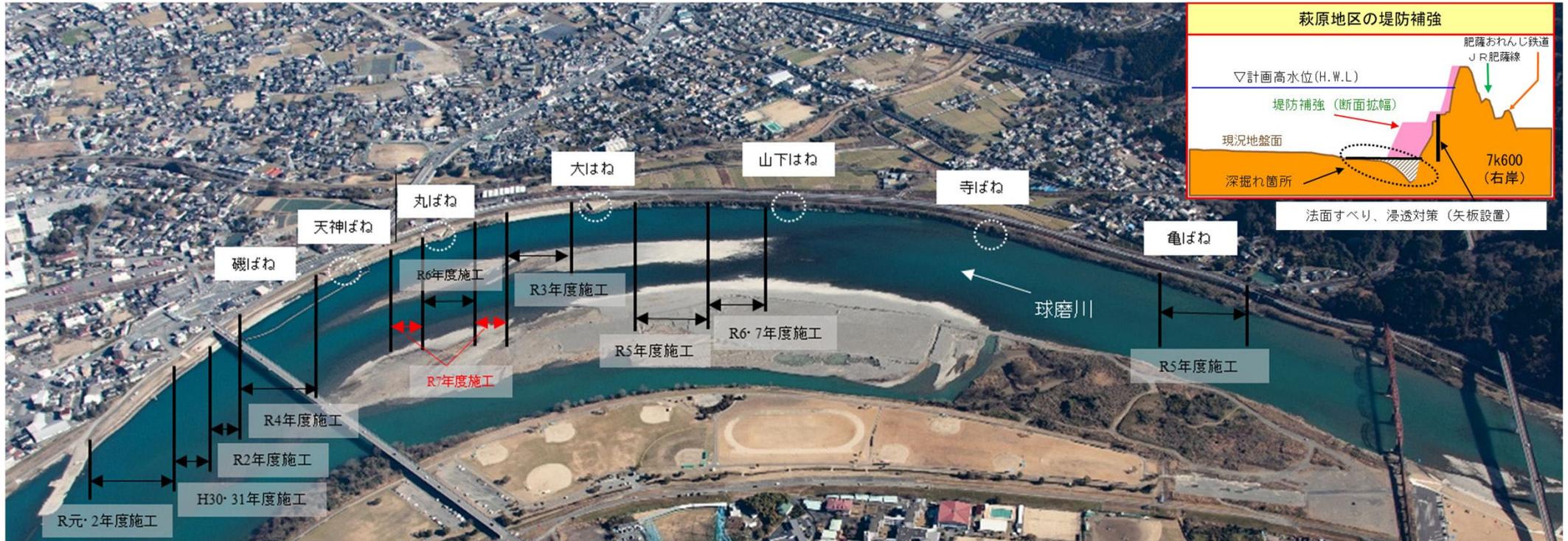


汚濁防止フェンスの設置状況



沈砂池設置状況

○萩原地区においては、堤防前面の深掘れ対策を平成22年に概ね完了し、矢板打設によるすべり等対策を平成29年に完了しており、平成30年から断面が不足している箇所での堤防補強対策を実施中。



治水構造物として人々を洪水から守ってきた「球磨川はね」は、そのまま「埋設保全」を基本とするが、石はねがあった当時の面影と憩いの場としての機能は新たな球磨川の高水敷に復元し、後世にその歴史的土木施設の価値を正確に伝承する。

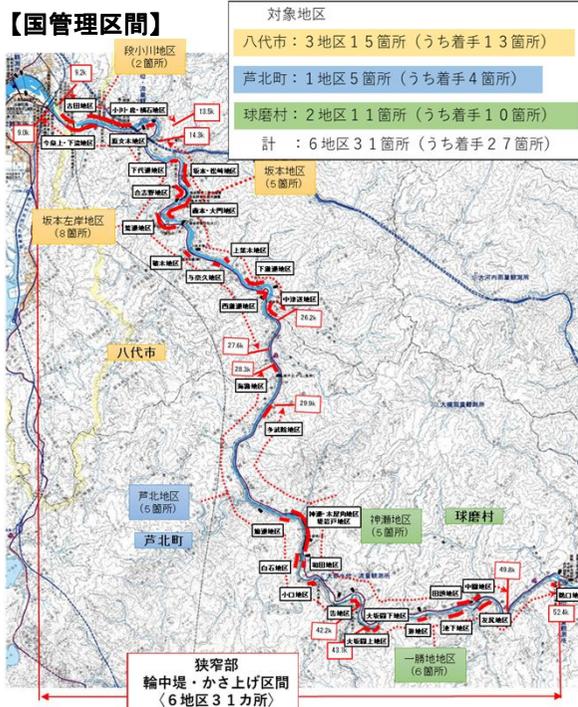
発掘状況



整備イメージ図



- 輪中堤・宅地かさ上げについて、県及び関係市町村と連携を図った上で、対象となる各地区で事業説明会等を令和3年3月から順次開催(3市町村計426回開催※令和7年5月末現在)。
- 事業説明会にて施工計画やスケジュール、宅地かさ上げ事業に係る補償を説明。
- 八代市、芦北町、球磨村、全31箇所のうち27箇所で、輪中堤・宅地かさ上げ工事に着手し、うち6箇所で工事が完了。



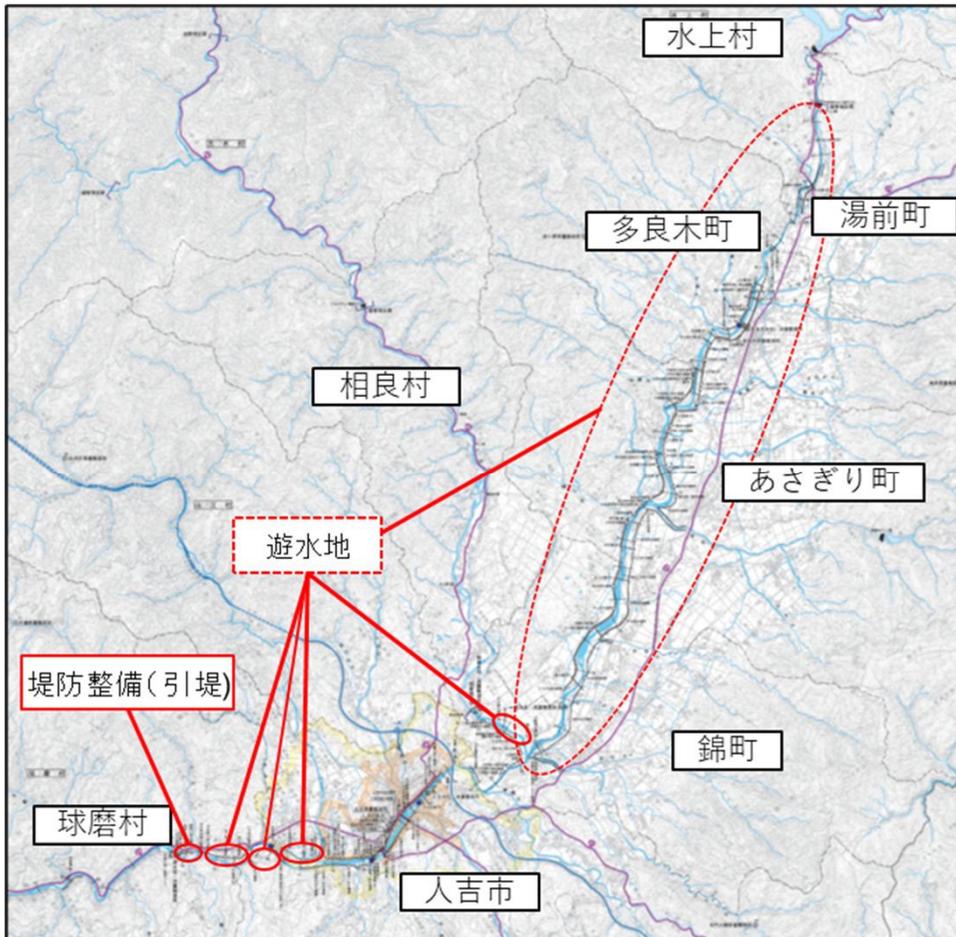
- 令和3年2月より順次、引堤・遊水地の候補地で説明会等を開催(計48回開催 ※令和7年5月末現在)
- 令和3年4月より順次、現地調査(測量等)、用地調査・協議を実施中
- 令和5年度より、相良村柳瀬地区において遊水地工事、球磨村渡地区において引堤工事に着手
- 令和6年8月より、球磨村渡地区において、遊水地工事に着手

<用地調査・協議中>

- ・相良村柳瀬地区 (遊水地)
- ・球磨村渡地区 (遊水地、引堤)
- ・人吉市大柿地区 (遊水地)
- ・人吉市中神地区 (遊水地)
- ・錦町柳詰地区 (遊水地)

<工事实施中>

- ・相良村柳瀬地区 (遊水地)
- ・球磨村渡地区 (引堤)
- ・球磨村渡地区 (遊水地)



■相良村柳瀬地区



■人吉市大柿地区・中神地区



- 球磨川流域で計画中の遊水地について、関係機関が連携し流域一体となった遊水地利活用を検討中
- 令和7年2月に遊水池利活用の先進事例として、良好な自然環境を保全・再生している静岡県あまはたの麻機遊水地に関係者と視察を実施
- 国・県・市町村が一体となり、地域の利活用にかかる意見を踏まえた設計や整備等を通して地域振興に貢献していく

▶遊水地利活用実務者会議

【遊水地利活用実務者会議開催状況】

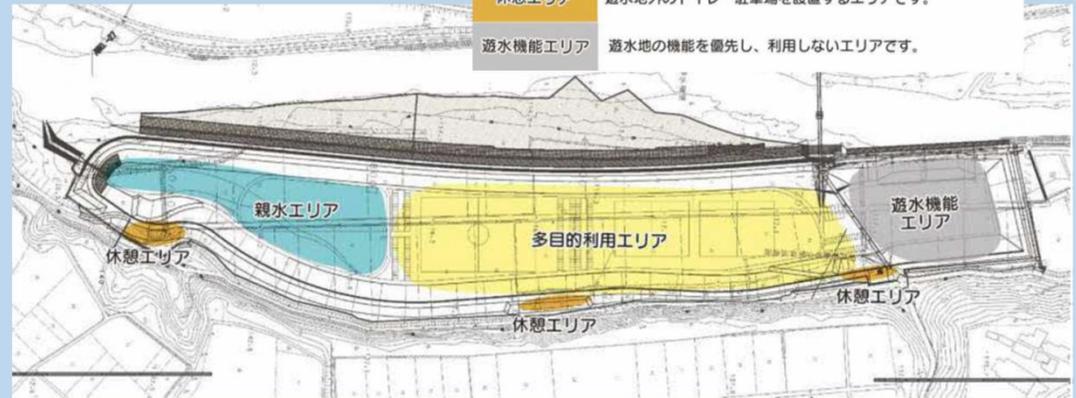
■関係機関：(利活用主体)人吉市、球磨村、相良村
(事業主体)八代河川国道事務所
(財政支援等)熊本県



▶遊水地の利活用に関する地元意見

柳瀬遊水地（相良村）

多目的利用エリア	サッカーやパークゴルフなど多目的な利用が可能なエリアです。フリーマーケット等のイベントでの利用も想定しています。
親水エリア	湧水を利用した水路や池で、水上ストレッチや犬と一緒に水遊びを楽しめるドッグランを計画します。
休憩エリア	遊水地外のトイレ・駐車場を設置するエリアです。
遊水機能エリア	遊水地の機能を優先し、利用しないエリアです。



※柳瀬遊水地利活用基本計画抜粋（R7.3月末時点）

▶実務者会議での先進地視察を実施



中神遊水地（人吉市）

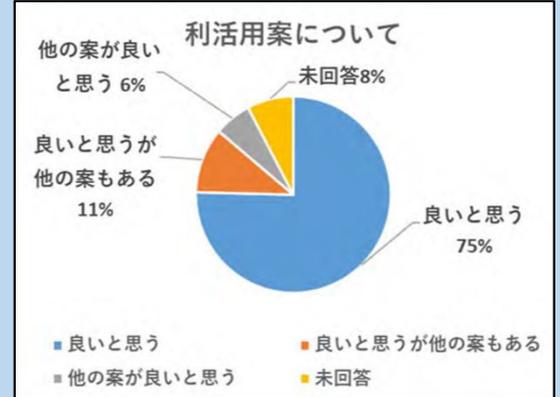
ヒアリングやワークショップで出されたアイデア

- ・色んなスポーツができる複合施設
- ・周囲堤の内側を使ったランニングコース
- ・越流堤や駐車場を活用したアーバンスポーツ
- ・花や季節の野菜など市民農園的な利用



アンケートでの利活用アイデア

- ・散歩道も作ってほしい
- ・夏まつりなどもできたら良い
- ・公園ドッグラン
- ・ヤギを飼ってはどうか
- ・花や緑を眺めながらのんびり散策も出来る様な場所

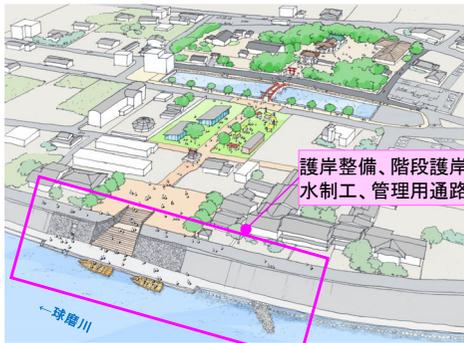


- 人吉市では「人吉市復興まちづくり計画」と連携し、地域の安心安全のため河川管理の効率化と清流球磨川をはじめとする自然や相良700年の歴史などの地域資源の保全・継承、さらにその魅力を活かした水辺空間の創出による観光振興など、河川の安全性を確保するとともに河川利用者の増加及び安全性・利便性の向上を目指し水辺整備を行う。
- 令和6年8月にかわまちづくり計画が変更登録された。これから青井地区等で整備を進めていく。

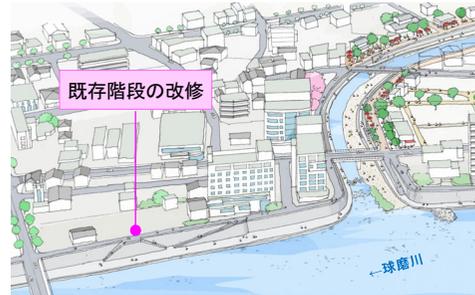


人吉地区

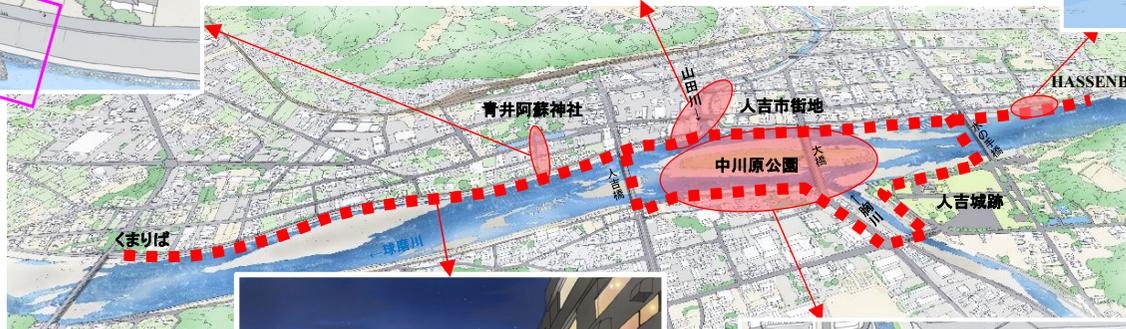
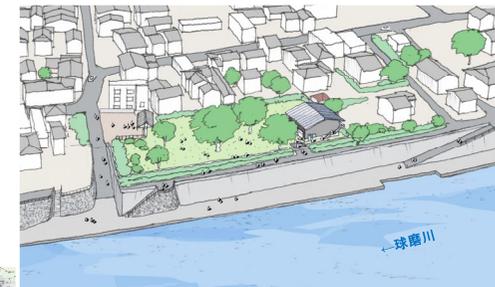
青井阿蘇神社～球磨川



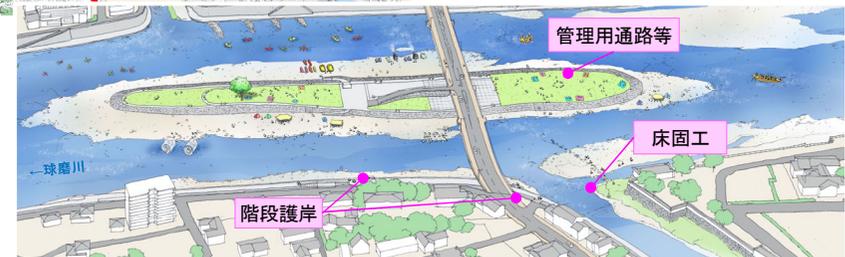
山田川合流点付近



城見庭園



中川原公園・胸川合流点付近



整備箇所・整備イメージ



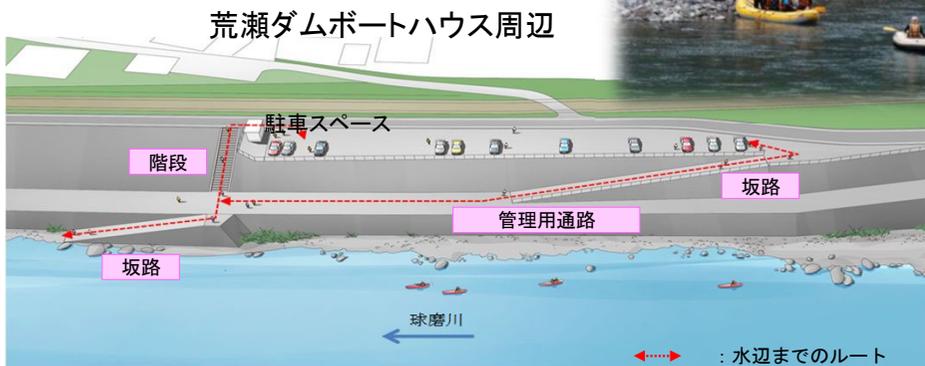
堤防道路

○『地域の観光資源である河川環境・景観の保全・再生』の取り組みとして、魅力ある水空間・賑わい創出を行っている。
 ○八代市の新萩原橋周辺地区では、遙拝八の字広場を整備し、キャンプや水遊び、イベント等で活発な利用がされている。また、坂本地区においても実行委員会で川下り体験や意見交換を行い、整備を進めている。

新萩原橋周辺地区



坂本地区



- 河川整備にあたり、動植物の生息・生育・繁殖環境や景観、水辺空間の利活用等に資する‘かわづくり’を推進するため、専門的知見やアイデアを幅広く聴取することを目的として、「球磨川かわづくりデザイン検討会」を設置。
- 令和5年12月に第1回検討会、令和7年1月に第2回検討会を開催。また、必要に応じて、環境WG、景観WGを年複数回開催し、個別箇所での具体的な検討を実施。

【球磨川かわづくりデザイン検討会の進め方】

・河道掘削

- ・新たに岩掘削や水中掘削などにおいて景観や生物に関する検討が必要
→ 学識者等の確認・助言等を踏まえ事業推進
- ・**宅地かさ上げ・輪中堤・引堤・遊水地**
- ・護岸や築堤において景観や生物・利活用に関する検討が必要
→ 学識者等の確認・助言等を踏まえ事業推進



球磨川かわづくりデザイン検討会

第1回（令和5年12月）

・委員会発足

- ・委員会設置の趣旨説明
- ・委員会の進め方

・球磨川の景観・環境の特性、ゾーン区分、基本方針について

- ・河川、周辺環境、歴史・文化の分析
- ・水系全体における環境、景観形成、利活用の考え方
- ・各ゾーンの特性、基本方針（案）の提案

・景観WG、環境WGの進め方

・個別箇所の具体検討

環境WG

- ・準備会：令和6年7月12日
- ・第1回：令和6年9月30日
～10月1日
- ・第2回：令和6年11月1日
- ・第3回：令和6年12月6日
- ・第4回：令和7年2月3日

景観WG

- 第1回：令和6年1月30日
- 第2回：令和6年2月26日
- 第3回：令和6年6月5日
- 第4回：令和6年7月1日
- 第5回：令和6年7月17日
- 第6回：令和6年8月1日

第2回（令和7年1月）

・令和6年度の検討結果

- ・環境WG、景観WGでの検討結果の報告
- ・事業の検討事項・対策について
整備箇所ごとの報告、人吉地区河道掘削、自然再生計画（案）

※検討会は年1回程度、WGは年複数回開催予定

【環境WG】

■目的

球磨川水系の環境上の課題を抽出し、対応方法を検討することを目的として設置

■検討内容

- ・球磨川水系全体の視点からの環境上の課題
- ・課題に対する対応方針
- ・環境施策の立案

【景観WG】

■目的

河川整備において整備箇所ごとに景観・環境・利活用に関する課題、対策工等を検討することを目的として設置

■検討内容

- ・整備箇所毎に景観、環境、利活用上の課題抽出
- ・課題に対する対応 方針検討
- ・対策工を立案し、設計、施工へ反映



第2回川づくりデザイン検討会
(R7.1)

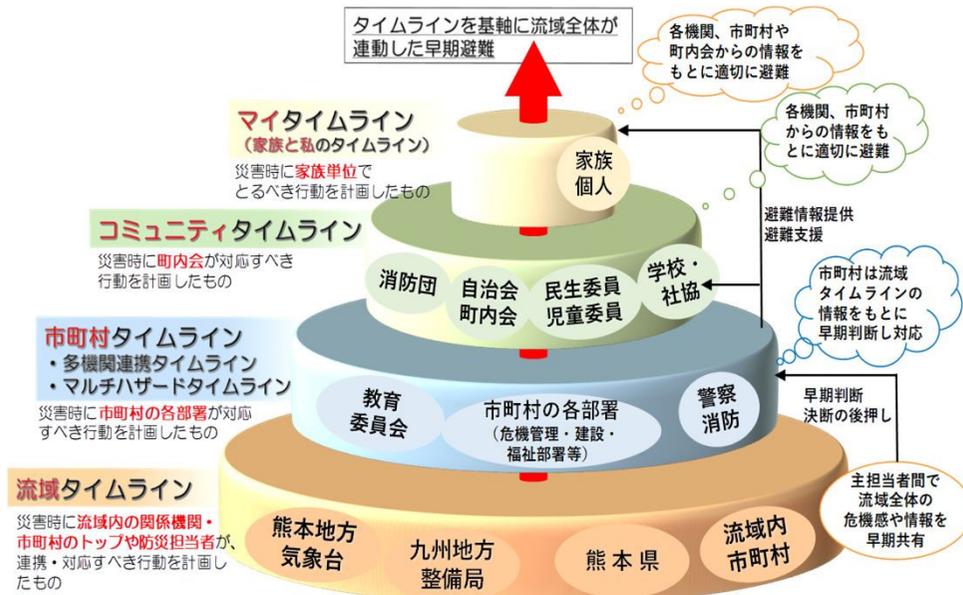


検討会委員による現地視察
(R6.10)

- 球磨川流域では、流域内関係機関による流域タイムライン、市町村タイムライン、町内会単位のコミュニティタイムライン、家族単位のマイタイムラインと各層でのタイムラインを運用することで、流域全体が連動して早期避難に繋げる取組みを実施。
- 流域タイムラインは、出水期前に気象情報や防災情報を共有し、災害への危機感の意識を合わせ、出水期後には、防災対応の振り返りを実施。
- コミュニティタイムラインは、令和2年豪雨の被災箇所を優先し、自治体と協力して、早めの避難行動の計画づくりを実施。

■球磨川流域タイムラインの取り組み

流域全体の連動した避難行動、各自治体の早期判断・決断を後押し等を目的に、球磨川本川、支川、土砂災害を対象とした「流域タイムライン」を作成、毎年会議を開催し見直しを行いながら運用。



各種タイムラインの役割や連動のイメージ

■コミュニティタイムラインの取り組み

町内会や自主防災組織の会長や役員が中心となって、住民が水害発生に備えて事前に取りべき防災行動をコミュニティタイムラインとして整理し、地域の防災計画を取りまとめ。

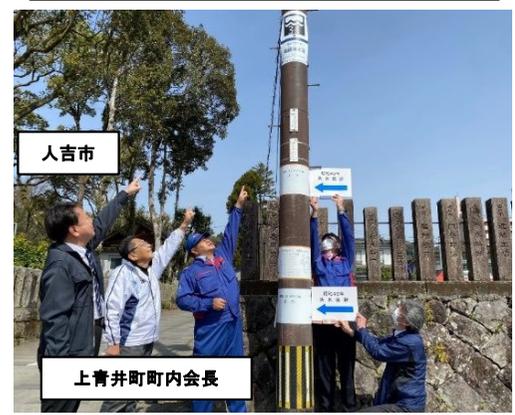


■令和2年7月豪雨で浸水した深さを示す「洪水標識」の設置(国、人吉市、八代市、球磨村)

○令和2年7月豪雨時の浸水深を示す「洪水標識」を生活空間である「まちなか」に表示することで、日頃から水防災への意識を高め、次世代に伝える記録として残しつつ、洪水時に命を守るための住民の避難行動の目安とすることで、被害を最小限にとどめることを目的に設置。

- 令和3～5年度の設置箇所数
- 令和3年度設置 計21箇所
 - 球磨村渡地区 (R4.10.24) 2箇所
 - 人吉市上青井町 (R5.3.14) 1箇所
 - 人吉市中青井町 (R5.3.14) 4箇所
 - 人吉市駒井田町 (R5.3.14) 8箇所
 - 人吉市城本町 (R6.3.25・28) 4箇所
 - 人吉市瓦屋町 (R6.3.25) 1箇所
 - 人吉市相良町 (R6.3.25・28) 5箇所
 - 人吉市上・下新町 (R6.3.25・28) 4箇所
 - 人吉市下原田 (R6.3.26) 1箇所
 - 人吉市下林町 (R6.3.26) 2箇所
 - 人吉市下薩摩瀬町 (R6.3.26) 1箇所
 - 人吉市下戸越町 (R6.3.26) 1箇所
 - 球磨村神瀬地区 (R6.3.26) 1箇所
 - 球磨村渡地区 (R6.3.26) 2箇所
 - 球磨村一勝地地区 (R6.3.28) 2箇所
- 計 60箇所

人吉市上青井町と協働で設置 (R4.3.25)



人吉市上青井、中青井、駒井田町と協働で設置 (R5.3.14)



人吉市相良町と協働で設置 (R6.3.28)



球磨村一勝地地区と協働で設置 (R6.3.28)



洪水標識

- 防災学習支援事業を行っているNPO防災WESTと協働で体験型の防災学習を実施。
- 浸水深30cm～50cmあれば、容易に逃げることが出来ないことを実体験、洪水時に避難をするために必要な「早期避難」の必要性を学習。
- 大雨、洪水時にはどう行動したらよいか、参加した生徒、教師へ呼びかけることで、家族で避難行動について改めて考える場をつくり、早めの対策・準備につなげる。
- 生徒や教職員からは積極的な意見や次回の授業計画に関する提案が多く寄せられ、学校全体で防災活動への関心が一層高まった。

【学習内容】

①防災WEST説明

- 水害時に自発的な行動をとり、命を守るためのグループワーク
- 総評・まとめ
- ハザードマップについて
- マイタイムラインの作成
- 発表・まとめ

②八代河川国道事務所説明

- 体験実験&講義
- 防災教室(座学)
- 浸水ドア実験

(令和6年6月19日)八代市立麦島小学校 5年生 計75人



マイタイムラインの作成

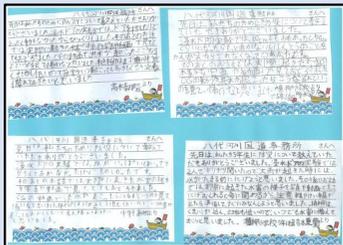


総評・まとめ



(参加した生徒の感想)

- ・浸水ドアでは、少しの水の量で開けるのが難しくなってしまうことを初めて知りました。
- ・写真やCG動画で逃げ遅れると命に関わる事を学び、警報など出たらすぐに避難したいと思いました。



(令和6年6月18日)八代市立植柳小学校 5年生 計40人



防災学習

(令和6年7月16日)八代市立郡築小学校 5年生 計31人



浸水ドア体験

「緑の流域治水」は、国、県、流域市町村、企業、住民が協働し、球磨川流域全体の総合力で安全・安心を実現していくものです。現在、様々な事業が目に見える形で着実に進んでいることから、住民の皆様からの行政に対する問い合わせ等により丁寧に分かりやすく説明することが求められるため、住民に一番身近な行政機関である流域の市町村職員が、流水型ダムを含む「緑の流域治水」の各取組みを自分事として捉え、更に理解を深めることを目的に、本研修会が実施されました。



球磨村(令和6年12月18日)



人吉市(令和6年9月4日)



八代市(令和7年2月10日)

○八代河川国道事務所の「早よ見なっせ球磨川」や国土交通省の「川の防災情報」では、球磨川流域の雨量、水位情報、リアルタイムのライブカメラ画像、レーダ雨量などの防災情報を閲覧可能とし、避難介助・水防活動に資する情報を発信。

『早よ見なっせ球磨川』

ライブカメラ



水位情報



雨量情報

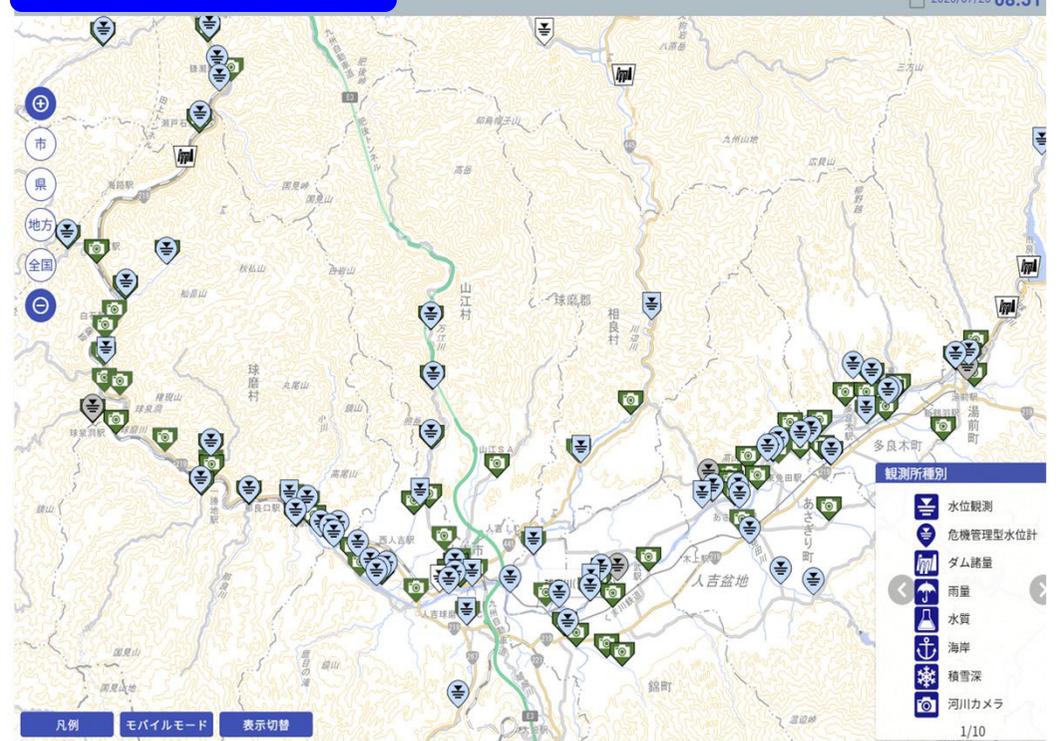


○水位については、観測所ごとに10分毎又は毎正時の水位等が確認できる。

○ライブカメラについては、球磨川水系に設置してある45箇所のカメラにより、現在の川の状況が確認できる。

○雨量については、観測所ごとに10分毎又は毎正時の雨量、累加雨量が確認できる。

『川の防災情報』



- 令和6年度から「川辺川アカデミア」の取組を開始し、五木村、相良村、人吉市の小中学生を対象に川辺川をフィールドとした環境教育、特別事業(探求学習)を実施。
- 令和7年度は、学校教育とも連携しながら取組を実施。

川辺川上下流交流会(川辺川で学ぼう! 2024) (令和6年8月)

○川の役割や特徴(上下流の違い)、川の利活用の仕方、河川環境等について学んでいただくことを目的に、川辺川で水難体験、川遊び体験及び水生生物調査を熊本県と合同で実施。(人吉市内や川辺川周辺にお住まいの10家族27名が参加)。



相良中学校と連携した理科特別授業(令和7年3月)

○生物や水質などのテーマごとに分かれ、身近にある川辺川を通して地域の特徴を学びながら、来年度理科授業で取り組みたい企画案について議論・発表。



相良北小学校と連携した理科特別授業(令和7年5月)

○川辺川の生き物の姿や暮らし、人との関わりについて知ることを目的に、水辺の生き物の観察や、川の流れ・風景の観察を実施。



地域振興の取組支援(五木村)

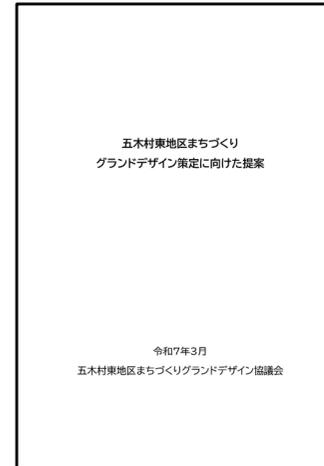
- 流水型ダムの整備中や完成後の利活用に向けて地域が主体的に取り組む地域活性化策について、川辺川の豊かな自然環境や広大な洪水調節地の特性等を踏まえ、利活用の可能性がある候補地を地域の方々と協力して調査を行い、課題や利活用案を検討中。
- また、五木村の行政機能等の中心である東地区の将来像を検討するランドデザイン会議において、県・国が協力し、会議運営だけでなく地域の特性を踏まえた課題の整理や解決のヒントになる先進事例等を提供。



地域のことを良く知る住民、役場職員と一緒に現地調査を実施
魚釣りのポイントであるが、川に下りる階段がない等の課題を共有



村民でもその地域周辺の方しか知らないようなスポットを確認
今後の利活用策について意見交換



五木村東地区ランドデザイン協議会
令和5年9月より令和7年2月まで全9回に渡る議論のうえ提案

流水型ダムに関して理解を深めて頂くための取組

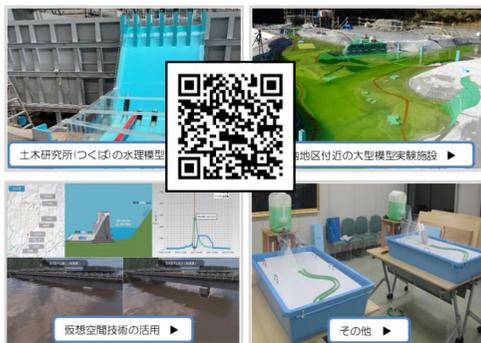
- 川辺川の流水型ダムの仕組みや構造、環境保全の取組に関する説明会に加え、地域の方々が関心を抱く内容に沿った説明会の実施やチラシの配布、事象をイメージしやすいよう大型模型や仮想空間技術を活用した説明等を、引き続き繰り返し実施。
- また、流水型ダムに関して理解を深めていただくため、引き続き、事業の進捗に応じて、熊本県など関係機関と連携して、各種説明会や環境教育(出前講座)などを継続的に実施。

取組の概要

事務所ウェブサイト上で模型実験やダムのイメージ動画、FAQを公開

・川辺川ダム砂防事務所ウェブサイト上で大型模型実験の結果や仮想空間技術を活用した川辺川ダムの効果、地域の方々からよくある質問に対する回答を公開。

流水型ダムに関して理解を深めて頂くための取組み



ダムのイメージ動画(仮想空間技術)



ダムによる水位低減効果のイメージ動画(仮想空間技術)



超大型水理模型実験の動画

チラシやパンフレットの配布

・流水型ダムの仕組みや環境保全の取組について、内容を分かりやすく解説したチラシ等を流域の方々に配布。



学校と連携した防災教育の推進の取組（出前講座）

- 6月の「土砂災害防止月間」に合わせて、地域の子ども達に「出前講座」を実施。
- 子ども達の防災意識の向上を図るため、土砂災害の事例や避難警戒レベル、防災情報収集の方法を紹介。
- また、流水型ダムや砂防堰堤の目的・効果を模型を使用して説明。

- ・五木村立東小学校：6月16日 9:20～10:05
- ・五木村立五木中学校・人吉高校五木分校：6月20日 11:40～12:30

五木東小学校



五木中学校・人吉高校分校



防災展「土砂災害から守る砂防」

- 7月～9月、五木村歴史文化交流館（ヒストリアテラス五木谷）にて、「土砂災害から地域を守る砂防」と題し、国土交通省の砂防及び防災に関する取り組みを紹介する企画展示を実施。
- 防災コーナーでは、地域の地形ジオラマや学校教育でも活用してる防災カードゲームの体験・映像視聴を展示。

- 場所：五木村歴史文化交流館（ヒストリアテラス五木谷）
- 期間：令和6年7月23日～9月1日



防災展紹介ポスター



避難時携帯品や緊急避難所用更衣室の展示



パネル等展示



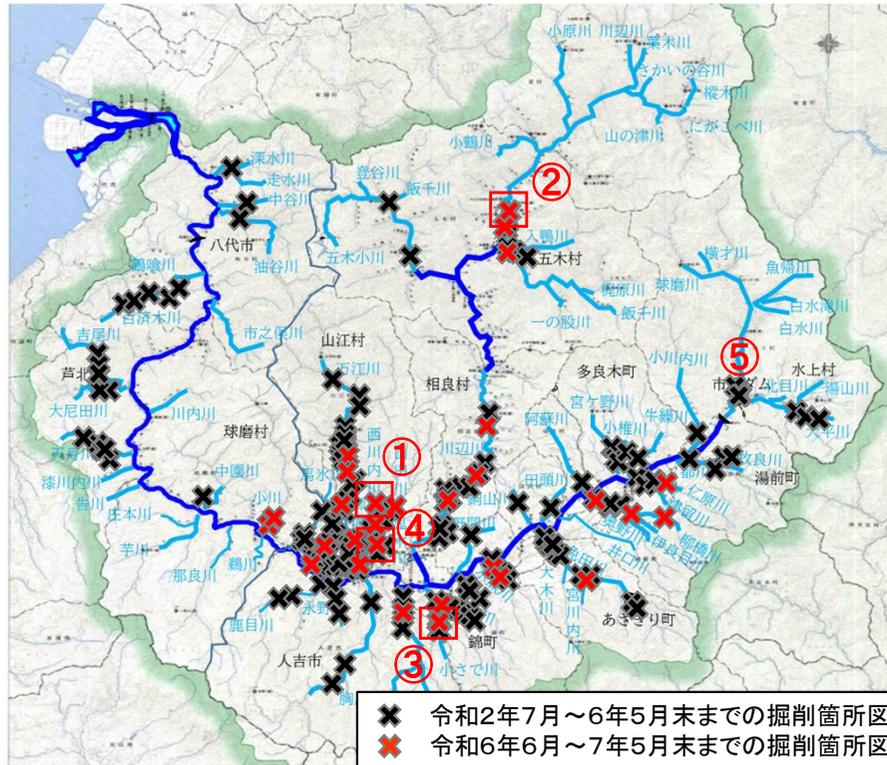
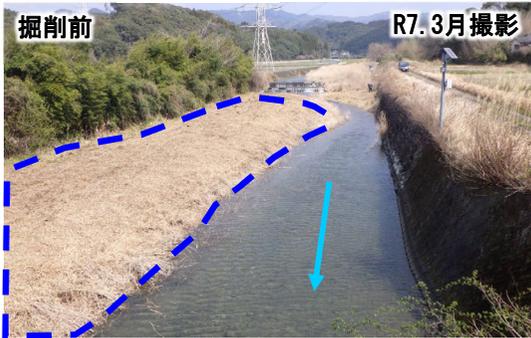
地形ジオラマ展示(警戒区域表示)



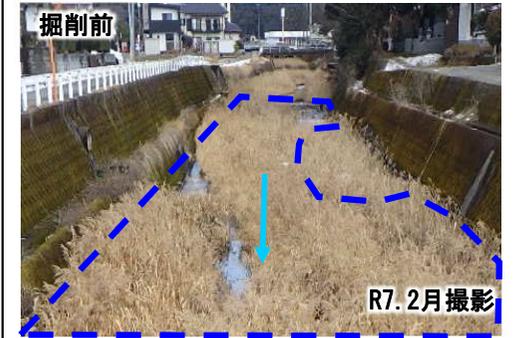
パネル展示(観覧状況)

○県管理河川においては、毎年、出水等により堆積した土砂を次期出水までに撤去できるように掘削しており、令和2年度以降、令和7年5月末までの累計で約154万m³を撤去。また、市房ダムにおいても、約89万m³の堆積土砂を撤去。
○引き続き、地元のご要望を伺いながら、河川の流下能力の維持やダムの洪水調節容量の確保を図る。

① 山田川 (山江村)



④ 鬼木川 (人吉市)



② 川辺川 (五木村)



③ 小さで川 (錦町)



⑤ 市房ダム (水上村)



- 堆積土砂の撤去にあたっては、生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出する多自然川づくりの考え方にに基づき、平水位より高い範囲を掘削し、水際の植生及びワンド(池状の入り江)を保全。施工7ヶ月後には、水際の植生が繁茂し、ワンドによる水生生物の逃げ場を確保する等、多様な水辺環境が保全。
- 今後、流下能力の向上を図る河道掘削を行う際にも、これらの施工事例や知見を活用予定。

■河川環境への配慮の事例(堆積土砂の掘削)



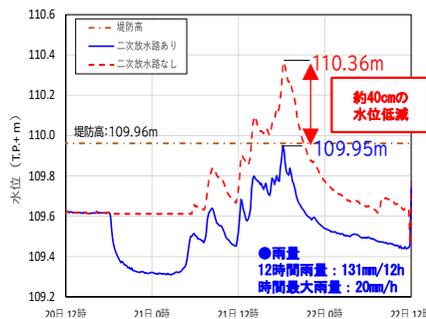
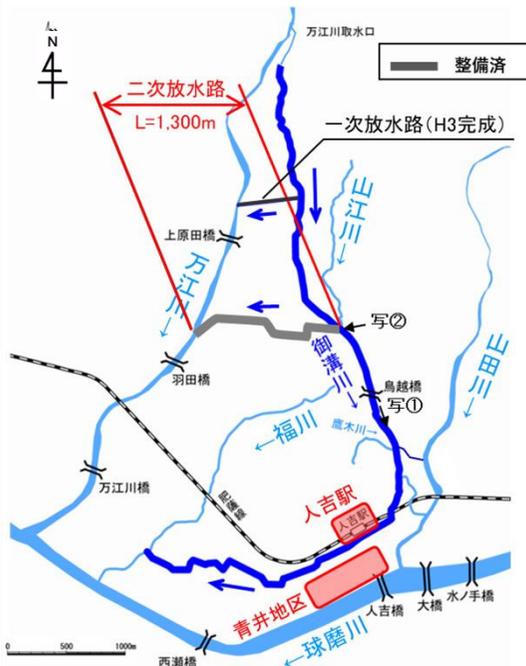
・水際の植生やワンドの保全をすることで、多様な水辺環境を維持し、様々な生物の生息環境を守る

○県が管理する支川においては、緑の流域治水の考え方にに基づき、田んぼダムなど集水域での対策を踏まえ、整備計画
 画上必要な河道断面の確保など河川整備を推進。

○御溝川(人吉市)では、土地区画整理事業が進められる青井地区や人吉駅周辺を含む市街地の浸水被害を軽減する
 ための二次放水路が令和7年3月に完成。5月末の時間最大雨量20mm、12時間雨量131mmの降雨においては、
 鳥越橋付近で約40cmの水位低減効果を発揮し、道路冠水を防止。

○田頭川(あさぎり町)では、用地買収が完了し、令和6年度に築堤工事に着手。

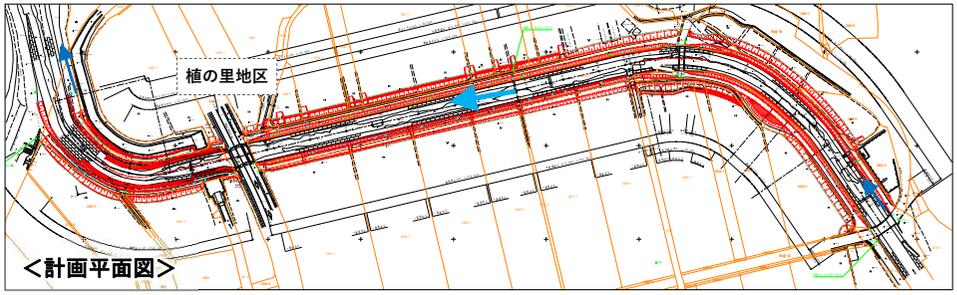
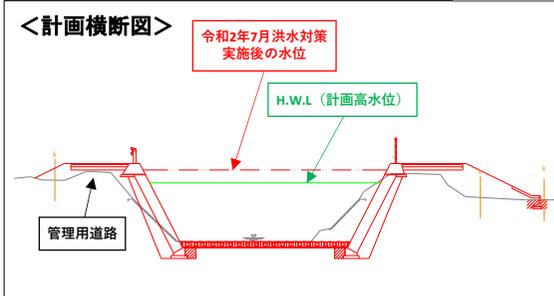
■御溝川 放水路整備



<放水路整備による水位低減 (R7.5.21) >

- 1 現地調査
- 2 設計・検討
- 3 用地
- 4 工事
- 完成

■田頭川 河川改修



- 1 現地調査
- 2 設計
- 3 用地
- 4 工事
- 完成

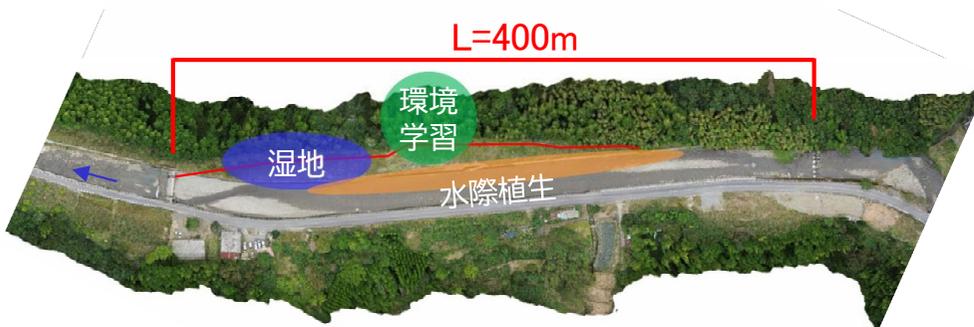
- 吉尾川(芦北町)では、休耕田を活用した河道内貯留機能を有する治水対策と新たな河川環境の創出を図るため、地元住民とワークショップによる多自然川づくりを推進。令和7年度は地元住民及び学識者とのワークショップ実施後、詳細設計・用地買収に着手する。
- 井口川(あさぎり町)では、洪水を一時貯留してゆっくり流すため、遊水機能を有する土地の確保・保全を推進。令和7年度は地元住民及び学識者とのワークショップを実施する。

■吉尾川 多自然川づくりの取組み

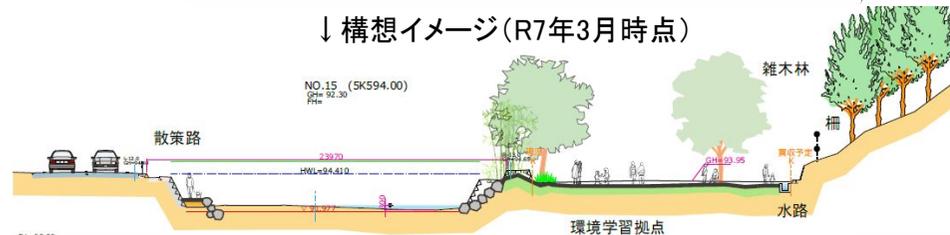
ワークショップの様子



- ・令和5年度 測量着手
- ・令和6年度 ワークショップ(計3回)
- ・令和7年度 ワークショップ(計3回)、用地交渉、詳細設計着手(予定)



↓構想イメージ(R7年3月時点)

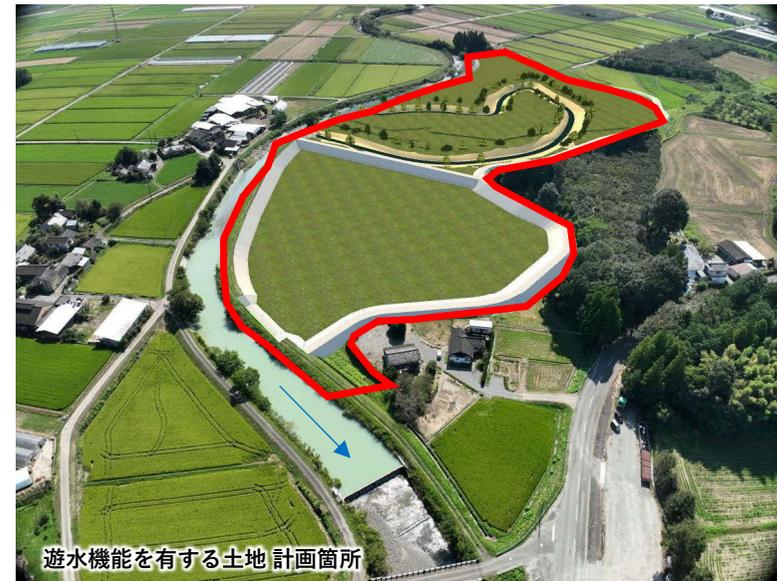


■井口川 遊水機能を有する土地の確保・保全



- ・令和5年8月 事業説明会
- ・令和5年9月 測量着手
- ・令和6年4月 詳細設計着手
- ・令和6年6月 計画説明会実施
- ・令和6年7月 用地交渉着手
- ・令和7年度 ワークショップ(予定)

↓3Dモニタージュ



遊水機能を有する土地 計画箇所

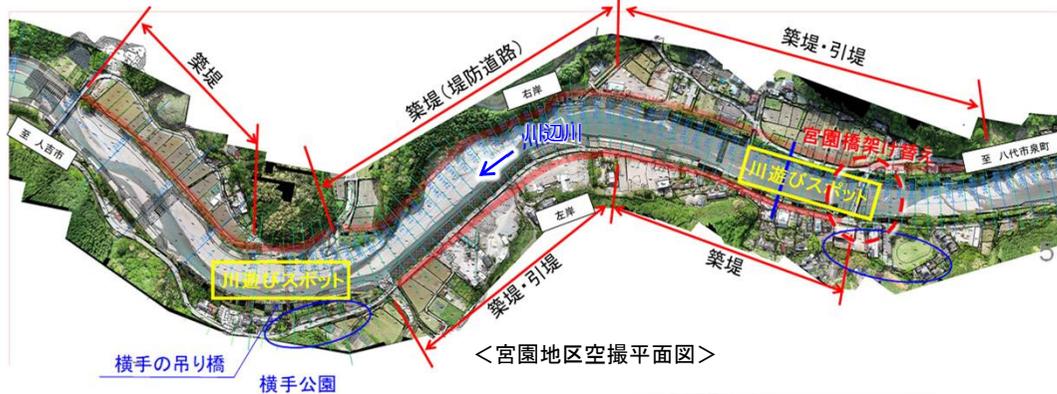


○川辺川(五木村)の宮園地区では、最終的な治水目標を見据えた抜本的な河川改修を実施。令和7年度は、堤防整備のための用地測量に着手するとともに、地元の意見を伺いながら、多自然川づくりに取り組む。

○^{かじわら}梶原川(五木村)の竹の川地区では、宅地かさ上げ及び河川改修を実施。令和7年度は、宅地かさ上げのための補償交渉に取り組むとともに、河川改修ではパラペット工事に着手。

■川辺川(五木村)

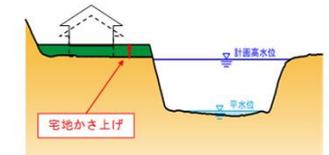
- ・令和4年8月に策定した河川整備計画に基づき、治水対策(河道掘削や築堤)の令和8年度工事着手に向け、令和7年度は用地測量に着手。
- ・また、治水と環境の両立や河川整備と連携した地域振興に向けて、宮園周辺地域振興協議会等で、地元の意見を伺いながら、親水空間や生物の生息・生育・繁殖環境の創出に向けた設計・試験施工にも取り組む。



1 現地調査 2 設計 3 用地 4 工事 完成

■梶原川(五木村)

- ・令和6年度は、宅地かさ上げの詳細設計や建物調査等を実施。またL=530mの区間において、河道の改良掘削工事を実施。
- ・令和7年度は、宅地かさ上げの補償交渉及び工事を実施。また、L=200m区間のパラペット工事に着手。

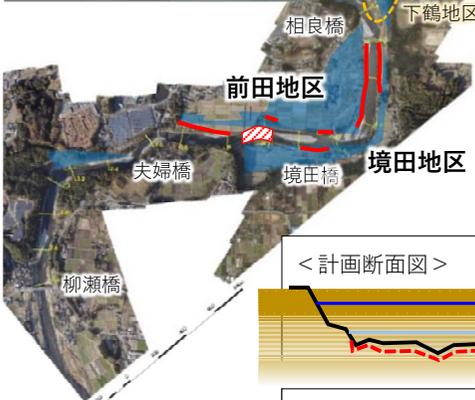
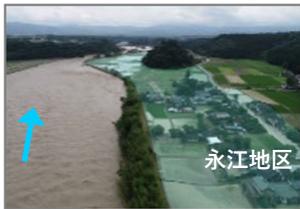


1 現地調査 2 設計 3 用地 4 工事 完成

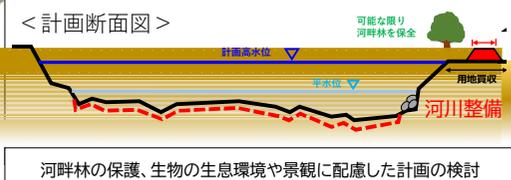
- 川辺川(相良村)においては、令和2年7月豪雨により、相良村内で床上184戸の甚大な家屋浸水被害が発生。
- 河道掘削や築堤等の河川整備及び遊水機能を有する土地の確保・保全により、浸水被害を軽減し、再度災害を防止。
- 河川整備については、令和7年度は平川地区で護岸工事を実施中。補助事業区間では河道掘削、用地測量に着手。
- 遊水機能を有する土地については、令和7年度は周囲堤工事の推進、相良村と利活用方針を引き続き検討。

■河道掘削や築堤等の河川整備 (補助事業区間)

・河川整備等に関する説明会 令和7年3月 30名参加



- 凡例
- R2.7豪雨浸水範囲
 - 築堤等(補助事業)
 - 河道掘削(補助事業)
 - 遊水機能を有する土地の確保・保全

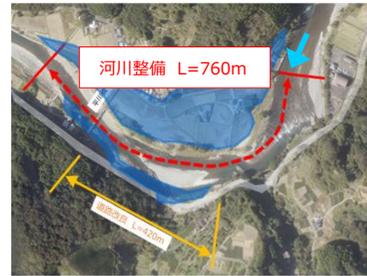


- 1 現地調査 2 設計 3 用地 4 工事 完成

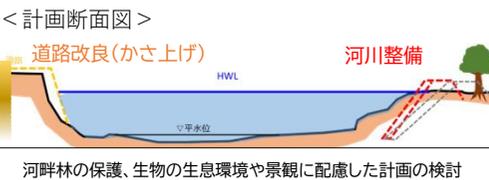
ひらこう (平川地区)

・整備内容を検討する際、河畔林の保護や生物の生息環境、景観等に配慮。

<事業平面図>



・護岸工事に着手 令和7年3月



- 1 現地調査 2 設計 3 用地 4 工事 完成

■遊水機能を有する土地の 確保・保全 (黒石地区・下鶴地区)

・洪水を一時的に貯留するグリーンインフラとして活用することで、洪水をゆっくり流して沿川の浸水被害低減を図る。

<事業区域図>



・川辺川河川関係工事着工式を開催 令和7年1月



- 1 現地調査 2 設計 3 用地 4 工事 完成

■川辺川魅力創造事業と連携した 河川整備 (廻り地区)

めぐり
本川護岸の整備イメージ



- ・交流拠点施設と調和した親水護岸
- ・くまもとアートポリス事業を活用した施設整備・情報発信(村内外)

- 県の治水ダムでは、ダムの機能や役割への流域住民の理解を深めるとともに、洪水時の迅速かつ円滑な避難に繋げることを目的として防災学習やダム見学会を実施。
- 訓練の強化・充実として、ダム洪水対応演習において事前放流や緊急放流を想定した訓練を実施。
- 避難行動・水防活動に資する基盤等の整備として、水位計・河川監視カメラの増設を実施。

普及啓発活動の実施

・ダムの役割や操作を解説したパンフレットや動画を活用して、沿川住民への現地説明会や市町村職員への説明会等を開催。

↓あさぎり町の防災学習 R6.10.27



↓人吉市職員への説明会 R6.9.4



市房ダム(水上村)見学会
R7.3.15



訓練の強化・充実

・4月21、22日のダム洪水対応演習において、関係利水者も参加し、治水協定に基づく事前放流や緊急放流を想定した訓練を実施。



訓練等の実施状況
(R7.4.21~22)



河川監視カメラ映像及び水位情報の発信

- ・令和2年7月豪雨以降に水位計13基、河川監視カメラ42基を増設(権限代行含む)。また、氾濫危険箇所にも河川監視カメラを増設予定。
- ・川の水位情報 (<https://k.river.go.jp>) で河川の状況に関する情報を発信。



↑仁原川(湯前町)河川監視カメラ(左図:外観 右図:夜間カメラ映像)



↑津留川(多良木町)河川監視カメラ(左図:外観 右図:夜間カメラ映像)



↑湯山川(水上村)河川監視カメラ(左図:外観 右図:夜間カメラ映像)